

秋まきコムギ縞萎縮病の発生低減に向けて！



病害多発生農家の発生低減に向けた取り組み支援

活動年次：令和4年

石狩農業改良普及センター石狩北部支所

1 課題設定の背景 *****

現状・課題

- ◆ 高齢化等による労働力の減少
- ◆ 作業機械の共同利用

問題点

- ◆ 手間のかからない小麦の連作
→ 生育遅延、収量・品質低下
- ◆ 新たな品種導入が容易にできない



小麦の黄化萎縮症状

秋まき小麦(きたほなみ)連作による縞萎縮病が多発生

このままでは、菌がますます増加...

病害発生低減に向けた栽培管理の取り組みを推進

2 活動の経過 *****

★ 病害低減に向けた対象農家の選定

○ JAと連携し、ほ場別発生状況調査を実施(4月)

特に発生の多い6戸を選定
(当別町 3戸、新篠津村 3戸)



縞萎縮病の調査(サンプル採取)

★ 低減への取り組みに向けたきっかけづくり ⇒ 調査結果を伝えて、現実を再認識させる

○ ウィルス病害調査(6戸)の実施(5~6月)

① サンプルを採取し
道総研に解析依頼

② 検査結果と対策を資料に
まとめ、個別指導を実施

1番の防除は輪作
です！でも輪作
が無理ならできる
ことから取り組み
を始めましょう！



★ 栽培管理意識の変革を図る ⇒ 今までの慣れっこ意識の改善

○ 個別訪問を行い、低減に向けた栽培管理へ誘導(5~9月)

① 栽培概要聞き取り、
生育・収量状況報告

② 次年度栽培に向け
た低減対策の提案



個別指導による農家との話し合い

3 活動の成果 *****

★ 無意識に行っていた管理作業が改善！
⇒ 他ほ場への菌伝搬を防ぐ作業体系へと変化



作業の後は、
きれいに洗ってね

○ これまで、防除作業等の管理作業は、意識しないで作業しやすいほ場順序で行っていた（6戸）が……

◎ 作業順序は、病害無発生ほ場から始めて、発生が懸念されるほ場は最後に作業（4戸）

○ 管理作業の終了後、農作業機械はそのまま外や格納庫に放置するのが常だった（3戸）……

◎ 作業終了後は、コンプレッサーによる土落としや洗浄を実施（2戸）

★ 連作の回避 or 抵抗性品種の導入！
⇒ 輪作等への取り組み意識が高揚

基本技術に取り組むことが一番の早道だね！



○ 発生ほ場で3年以上の連作農家（6戸）が……

◎ 次年度予定していた小麦をやめて大豆を作付（2戸）

○ 抵抗性弱「きたほなみ」作付農家（5戸）が……

◎ 抵抗性強の特性を持つ「ゆめちから」導入（1戸）

★ 発生低減に向けた栽培管理を実践！
⇒ 発生ほ場における早期は種の回避

は種期を遅らせることは、自分たちでも容易にできることだね。



○ これまで、発生ほ場も水稲収穫前に、は種（早期は種）を行っていた（3戸）が……

◎ 発生が懸念されるほ場は、水稲の収穫後には種を実施（2戸）

○ は種するほ場は、発生ほ場に関係なく、作業しやすい順路では種していた（4戸）が……

◎ 秋の感染拡大が理解され発生ほ場のは種を最後に実施（3戸）



4戸平均のは種期日が、R3年：9月18日 ⇒ R4年：9月26日に！

4 今後の活動 *****

春に病気の発生が見られない健全な小麦を作ろうよ！

■ 病害低減に向けた取組効果検証及び他農業者への取組を波及

■ 国の施策に対応した無理のない輪作体系の検討支援

○ 個別指導や講習会等で低減に向けた取組を継続的に啓蒙し、他農業者の意識高揚と実践につなげる

○ 水田活用直接支払交付金に伴う田畑輪換の取組も含め、農家とともに検討

